

国保病院の運営について

小泉優子議員

信頼回復に早急に取り組む

碓 町 長

国保病院の改革を

Q 町民の多くが町外の医療機関へ通っている。交通費や時間の浪費等を計算すると本人の消費や不便だけでなく、町財政にとっても大きな損失でありま

す。国保病院の信頼回復は、早急に取り組まなければならない課題であります。町長の、執行方針で述べられてた「保健・医療・福祉」の一体化の中心となるのは医療であります。新しい外科医師の招入に成功したことは、大きな成果と思えますが、充実した病院運営には病院全職員の団結と意識改革が必要と思えますが、見解を伺いたい。

医療協議会を設置したい

A ここ数年内科医師の短期交代が続き、町民は町外の大規模病院を利用しているのは、指摘のとおりであります。医師が替わっただけで経営が良くなるとは私も思っておりません。院長を中心とした町づくりの医療協議会のようなものを設置し、町民の方が健康づくり、病院づくりについて意見を申し合える場をつくり、スタッフにも参加していただきたいと考えています。

安心できる病院職員研修を

Q 町民は安心してかかれる病院を一日千秋の思いでまっています。町民から親しまれる病院実現のために、職員の町外の施設研修を積極的に取り入れていくことが大切だと思いますが、

職員研修を進めたい

A 今累積赤字が四億円余り、更に一般会計から二億円余り繰り出しています。医療問題は単に医療だけの問題でなく町財政につながる事です。このことは院長はじめ、スタッフ全員に私の考えをお話をしたい。

一般質問 Q&A

広島県みつぎ町というところ

に昭和五十一年から全国で一番という黒字を続けている公立病院がある。この病院も興部と同じように国保病院からスタートしているが、保健・医療・福祉の連携をいち早く取り入れ、待ちの診療から出前診療と保健活動に力を入れ、町民の健康管理に成果を上げています。私もこの病院のかたちを取り入れ進めたい。

更に北大が地域医療に熱心に取り組んでいるので、その教授とも連携を取りながら、職員の研修や勉強が出来る形をつくり病院体制づくりを進めたい。

特別養護老人ホームの建設は

Q 町の計画では平成十九年の建設となっているが、財政再建計画の中では施設建設は当分非常に難しいのではないかと

早期建設は難しい

A 特別養護老人ホームの平成十九年までに建設というのは町の計画であるが、道の話では平成十九年以降であれば建設の可能性はありますが、網走管内は

非常に整備が進んでいるので、整備の少ない人口集中の道央圏に進む可能性が高いので、難しいのではないかと言っている。

いま、興部町には施設待機者が十四名いるが、これからの特別養護老人ホーム建設は個室化が基本ということから、建設費は十億円を越えるだろうとの試算がある中で、財政再建計画中の財政状況の中では、非常に難しいと考えています。

福祉保健総合センターを特別養護老人ホームに準ずる活用を

Q 平成十五年四月から介護保険制度の改正により施設のショートステイの受け皿が不足する傾向が益々強くなると思われます。当町において当面特別養護老人ホームの建設が難しければ、町民の緊急対応策として「福祉保健総合センター」の居住部分を特別養護老人ホームに準ずるような活用を検討すべきではないかと

実施できるような検討

A どんな介護施設でも、病院の往診体制がしっかりしていなければ施設運営はできません。

幸い新しく赴任された佐々木医師がそういう考えを持った方なので、いま造った福祉保健総合センターをうまく使えないか、道庁の地域医療課にお話をしたところ、榎法華村を紹介されたので見てき

ました。ここは本州の先進的な取り組みに習った全道只一ヶ所の例であります。したがって、興部でも個室化の特養に近いサービスができるのではと、今検討中であります。

それができると他の町に落ちていく何億という介護保険収入が町に入り、雇用が生まれ毎日の食料が地元調達出来れば非常に大きな産業になります。医療、福祉は雇用にもつながる非常に大きな公共事業である。この整備については積極的に検討し、議会や福祉協議会とも相談しながら進めたい。



福祉保健総合センター（きらり）